

吉野と古典文学

吉野は、古くから様々な文学作品の舞台となってきました。ここでは、吉野が登場する主な古典の文学作品をご紹介します。吉野にまつわる様々な物語がありますので、お近くの図書館などで調べてみては如何でしょうか。

『宇治拾遺物語』

- ・ 龍門の聖 鹿にかはらんとすること
- ・ 金峯山箔打のこと
- ・ 日藏上人吉野山にて鬼に逢うこと
- ・ 清見原天皇大友皇子と合戦のこと

『宇津保物語』

『栄華物語』

『応仁記』

『義経記』

『義楚六帖』

- ・ 国城州市部第43 日本国の条

『元享釈書』

- ・ 龍門寺義淵
- ・ 醍醐寺聖宝
- ・ 東寺日藏

『源氏物語』

『源平盛衰記』

- ・ 五節夜の闇討ち 附五節の始め 并周の成王の臣下の事
- ・ 聖徳太子椋木 附天武天皇榎木の事
- ・ 鱸の奏 吉野の国栖の事
- ・ 役行者の事

『江談抄』

- ・ 清見原天皇、五節を始めたまふ事

『古今著聞集』

- ・ 貞崇禅師、金峯山の阿古谷の竜の神変について述ぶる事
- ・ 西行法師、大峰に入り難行苦行の事
- ・ 大弐資通、管絃者を伴いて金峯山に詣でる事
- ・ 僧広清・円久・円善、没後に法華経読誦の事

『古事談』

- ・ 陽勝仙人、定頼の誦経を聴聞する事
- ・ 源信、金峰山の歌占の事

- ・舜見、鹿の体を作し、獵者を教ふる事

『今昔物語集』

- ・役優婆塞、呪を誦持して鬼神を駈へる語
- ・道照和尚唐にわたりて法相を伝えて還り来る語
- ・道慈、唐にわたり、三論を伝えて帰り来り、神叡、朝にありて試みたる語
- ・聖武天皇、始めて東大寺をつくれる語
- ・現光寺を建て、靈仏を安置せる語
- ・久米の仙人、はじめて久米寺を造ったお話
- ・修行僧の広達、橋の木をもって仏の像をつくれる語
- ・魚、化して法華經と成れる語
- ・金峯山の薊岳の良算持經者の語
- ・修行僧義睿大峰の持經者に値ふ語
- ・陽勝苦行を修めて仙人と成る語
- ・金峯山の僧轉乘法華を持ち前世を知る語
- ・金峯山の別当毒茸を食いて酔わざる語
- ・大峰を通る僧、酒泉郷に行きたる語

『狭衣物語』

『更級日記』

『三宝絵詞』

- ・役行者
- ・吉野山の寺僧

『沙石集』

- ・吉野の執行、遁世の事

『十訓抄』

- ・五節の舞の起源 をとめごがの歌

『撰集抄』

- ・吉野の奥の遁世者の事

『続古事談』

『太閤記』

『大日本法華經驗記』

- ・吉野山海部峰寺の広恩法師
- ・吉野奥山の持經者某
- ・叡山西塔宝幢院の陽勝仙人
- ・竜海寺の沙門某
- ・金峰山の轉乘法師

『太平記』

『塵塚物語』

- ・大峰の伝聞、仙境、修験者、加護、山桜

- ・南朝の弁内侍のこと、楠木正行手柄の物語
- ・新待賢門院の御所の化け物と伊賀の局の武勇談
- ・光明皇后の御長髪・白拍子、静の長髪・寸話
- ・源九郎義経のとんち・弁慶のとんちやく

『堤中納言物語』

『とりかへばや物語』

『日本靈異記』

- ・三宝を信仰し、現報を得る縁
- ・孔雀王の呪法を修持し、不思議な威力を得て現に仙人となりて天に飛ぶ縁
- ・慇に勤めて観音に帰信し、福分を願いて、現に大福德を得る縁
- ・未だ仏像をつくりおわらずして捨てられたる木、珍しきしるしをしめす縁
- ・法華経を億持する者の舌、さりたる髑髏の中につきて朽ちざる縁
- ・禅師の食わんとする魚、化して法華経となりて俗のそしりを覆す縁

『宝物集』

『浜松中納言物語』

『発心集』

- ・金峯山に於いて妻を犯す者、年を経て盲となる事

『本朝神仙伝』

- ・役優婆塞
- ・都藍尼
- ・陽勝
- ・陽勝の弟子の童
- ・沙門日蔵

『吉野拾遺』

『夜の寝覚め』

(五十音順)